

第2回犬山市ICT活用教育研究委員会 議事録

1 附属機関の名称

犬山市ICT活用教育研究委員会

2 開催日時

令和5年2月17日（金） 午後3時30分から4時30分

3 開催場所

犬山市役所2階204会議室

4 出席者

(1) 委員

三輪 芳久、勝村 偉公朗、梅田 理奈子、中野 実、小室 武
鈴木 寛央、神谷 惇己、加藤 浩子、舟橋 正人

(2) アドバイザー

玉置 崇

(3) 事務局

滝教育長、中村教育部長、大黒課長
野村課長補佐、山田統括主査、松岡主査補

5 議事内容

大黒課長：

定刻となりました。本日は大変お忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまより令和4年度第2回犬山市ICT活用教育研究委員会を開催します。進行は、学校教育課長の大黒が務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。はじめに、中野委員長より、ご挨拶をお願いします。

中野委員長：

～あいさつ～

大黒課長：

ありがとうございました。本委員会は犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドラインに基づき、公開とさせていただいております。

また、この会については、犬山市ICT活用教育研究委員会規則第6条により

8名の委員のうち半数以上が出席いただいておりますので、成立することをご報告します。

まず、お手元にお配りしてあります資料等のご確認をお願いいたします。事前配布させていただいたものとして、

- ・令和4年度第2回犬山市ICT活用教育研究委員会 次第
 - ・犬山市ICT活用教育研究委員会 委員名簿
 - ・犬山市ICT活用教育研究委員会規則
 - ・資料1-1 資料1-2 学習用情報端末の利用アンケート
 - ・資料2 教職員向け研修会のアンケート
 - ・資料3 学校でのICT活用について
 - ・資料4-1 学習用情報端末のさらなる活用について
 - ・資料4-2 令和5年度ICT機器を活用した学びの方向性について
- がございます。

資料等の不備がございましたら、事務局までお申し出ください。

なお、本日の会議の終了時間は、午後4時30分を目途とさせていただきたいと思っております。

それでは、以降の取り回しについては、犬山市ICT活用教育研究委員会規則第5条第3項の規定に基づき、中野委員長をお願いいたします。

中野委員長：

それでは次第に従いまして、ただ今から会議に入らせていただきます。本委員会の会議録につきましては、事務局で作成したものに委員長の指名する2名以上の署名をいただくこととなっております。前回の委員会において、出席している方の中で名簿順にお願いすることとなりましたので、今回は、小室委員と鈴木委員に署名をお願いいたします。それでは、次第に基づいて進行させていただきます。

資料1-1、資料1-2の学習用情報端末の利用アンケートについて、事務局の説明を求めます。

事務局（山田）：

《資料1-1、資料1-2説明》

中野委員長：

それではこのことについてご意見、ご質問、感想等がございますか。次に、資料2の教職員向け研修のアンケートについて、事務局の説明を求めます。

事務局（松岡）：

《資料 2 説明》

中野委員長：

それではこのことについてご意見、ご質問、感想等はございますか。

玉置アドバイザー：

この研修で話をされたのは、一般社団法人国際エデュテイメント協会の方ですよね。私は犬山市の先生方でも十分に研修ができる力はあると思うので、外部に頼らなくても、先生方が中心となってやれるのではないかと思います。

中野委員長：

その他、意見はございますか。続きまして、資料 3 の学校での ICT 活用について、事務局の説明を求めます。

事務局（松岡）：

《資料 3 説明》

中野委員長：

それではこのことについてご意見、ご質問、感想等はございますか。

鈴木委員：

令和 5 年 3 月から、ICT 支援員の訪問回数を月 2 回から 4 回に変えるということですが、経緯が分かれば教えていただきたいです。

事務局（山田）

これまで、ICT 支援員を各学校に月 2 回訪問させていただきました。ハード面ではある程度整備することができましたが、この先はソフト面の整備ということで、授業の中で先生方が使いやすく活用していただくために検討していく中で、少しでも先生方がこういう授業を行いたい、授業をやるには教材研究など本来の準備すべきことがあって、それと同時に ICT 機器の活用の仕方や、子どもたちが ICT 機器を使えるようにするための下準備のようなことをやらなければいけない。ひとつの授業に対して準備しなければならないことが増えてきている現状の中で、ICT を活用した授業を展開していくところで少しでもサポートできる体制を充実させていきたいという考えで、訪問回数を月 2 回から 4 回に回数を増やし先生方が授業でこういうふうに使いたいとなった時に I

C T支援員が近くでサポートができる体制を整えていきたいと考えて増やすことになりました。

鈴木委員：

現場のサポートをしていただける人を増やしていただけることについて、本当にありがとうございます。訪問回数が増えたことが無駄にならないように、現場でお互いに声を掛け合って一緒にやっていきたいと思います。

ただ、現状では、ラインズさんが支援に入る時は、どうしても契約の関係で個人情報に関わることについては、一切支援に入れなため、支援が限られてきます。現場の先生が一番来ていただいてありがたいと思うことは、どちらかといえば、エデュコムのようなところからの支援になります。他の市町ではエデュコムが支援員として入って、授業の支援だけでなく校務の支援もサポートしていると聞きます。もし、この先どこかのタイミングで、エデュコムからの支援員さんも入れていただくと、このG I G Aスクール構想によってすごく増えてしまった膨大な個人情報のいろんな整備が整っていくのかなと思いました。

中野委員長：

このあたりは、鈴木先生、神谷先生、小室先生にも事前に要望を出していただいています。この場で再度、足していただく形で要望ということで今回は提案のとおりですが、今後に向けて再度こういったところでI C T支援員さんにやっていただくとありがたいなという声をこの場で言っていただくとありがたいです。具体的なところを鈴木先生からおよそ言っていただきましたが、他に何かありますか。

鈴木委員：

他には、個人情報に関わるような作業がすごく増えているので、個人情報が扱える支援員さんをお願いしたいです。

神谷委員：

年度移行の名簿やタブレットの番号の割り振り、経年劣化なのか新入生にタブレットの割り振り作業時にw i f iが繋がらない、キーボードが使えないなどの対応をI C Cさんに連絡し市教委への文書提出を毎日のようにやっている。このあたりがかなり負担になっています。

小室委員：

お二人のご意見にあるように、特にアカウントの管理、ひとつはメインのアカ

アカウントを使っていますが、例えばデジタル教科書を使う場合、更に重複させるのか別のアカウントにするのか。デジタル教科書は今3個くらいあり、別々に登録する必要があります。また文部科学省のスピーキングのデジタルのメクビットというシステムにもうまく登録すればワンアカウントでできますが、登録をしないとイケない。そうした時に、ある程度分かった人がやらないとトラブルの元ですし、公開されてしまう恐れがあるということで、ある意味教職員のエラーが起きる可能性があるのを一番心配しています。そのため、鈴木先生が言われたようにそこまで関わって管理していただけると非常に助かります。多忙の中で、確実に情報を扱うようには努力をしていますが、エラーが起きてしまうことは実際あるので、より安全に使わせていただけるようにその部分が重要です。あとはライズさんに関しては授業支援に入らせていただいています。端末の管理に関しても助けていただくと、市教委さんからの問い合わせで端末を全て確認するよということ、一生懸命やっておりますが、誰か手伝っていただくと管理上も安全に正確に使えると思うので、ぜひお願いできたらと思います。

玉置アドバイザー：

よい提案を現場からされていると思います。全国的に支援員を入れたからいいだろうという判断の行政があるので、先生方が言われるように支援員さんがどんな契約内容なのかによって本当に活着ているか活着ていないか、ここが活着ていないというわけではないけど、そのあたりの視点を現場とやり取りされたらいいので、しかもメクビットをやるのにも、シングルサインオンで今ずいぶん進んできていますので、パスワードをいちいち変えなくてもいいように。それで僕はエデュコムのアドバイザーもやっていますが、そういうものも進んでいますので、そういうことも含めながら製品のいわゆる現場の声とやり取りしながら行くと、せつかく施策を動かされてもプラスになるほうがいいのでということをお聞きしながら、よい提言をされているなと思いました。

事務局（山田）：

先生方のお話から、今、学校が必要としている支援は、授業支援だけではなく、むしろ校務的な側面での支援が必要とされていることを身に染みて感じております。私も特に年度末と年度始めの3月、4月の業務がすごく増えたと感じていて、GIGAが始まってから先生方がやらなければならない業務を書き出してみましたが、年度末で約30個、年度始めも30個くらい出てきました。これだけ多くことを先生方がやらなければならない現状があるのだということを感じたところで、ライズには学習支援についてお願いしているところですが、先生方の声や年度末年度始めに必要な業務支援についてもライズにはお伝えし

ています。なかなか全ての対応をすぐにとというのは難しいですが、ラインズもそういう業務はやらないと言っているわけではなく、少しでも現場で先生方の力になりたいというようなところではありますので、なかなか個人情報に触れる部分を全てというのは難しいところではありますが、工夫をすることで、少しでも手伝っていただき、先生方の業務のスリム化できる方法など、私達も考えますし、I C Cやラインズにも一緒に考えてもらって、少しでも先生方の業務が少なくシンプルになるようにしていきたいと思います。アカウントの管理は本当に大きな課題だと感じています。やはりヒューマンエラーのようなことも今後リスクは高まっていきますので、どのようにしていったらいいのか、今ここでI C Cと結んだ契約の中で、どう工夫していったら先生方の普段のお困り感を軽くできるか、知恵を絞って考えたいと思っております。貴重なご意見、ありがとうございます。

中野委員長：

ありがとうございます。続いて、協議事項の資料4-1、資料4-2について、事務局の説明を求めます。学習用情報端末の更なる活用について、事務局の説明を求めます。

事務局（山田）：

《資料4-1、資料4-2説明》

中野委員長：

ただ今の提案について、ご意見、ご質問、感想等はございますか。
小室委員どうですか。

小室委員：

今の提案について賛成です。まずは使ってみてというのが、ここ1年から1年半くらいのことであって、使うことで、咀嚼されてきて、少しずつブラッシュアップがかかってきている時期に入ってきたのではないかと思います。その他に、情報をどう共有していくのかについて、校長会のICT委員会でも話題になり、うまく活用できる方法などを考えているところです。先ほど山田先生から出てきたラインズさんの報告書には、ときどき書いてみえるのは見えますが、市教委のほうには報告は上がっても、現場にはリターンがないです。ICT機器を使ってすごいと思うことは、更に書いてくださって、まあこれかなとは思いますが、カテゴリーに分けて見ることが出来るようにしていただけると、こちら方法など考えることができると思います。一つ提案としては、ここから先

に校務用のドライブがワンドライブに、教育用と校務用に分ける措置をとるにあたって、校務用のドライブに全員が見ることが出来るようなところを、ICT活用等のドライブで、個人情報削減されたような形で入れることができるようにしていただくと、すぐにアクセスして、カテゴライズされて、意見交流の場面や掲示の画面や、そうすると時々どうやって使おうかとする機会がワークライズに進んでいるのかなと思っていて、うまく使えるかなというイメージの段階です。

2つ目、教育研修に関しては、いろいろ考えていただいて、いつもありがとうございます。個人的には、使い方もだが、教員側のコンプライアンスが社会情勢でもあるので、特に著作権に関するところが心配です。例えば最近、ホームページの通信の一部にキャラクターが載っていて、私的なキャラクターだと裁判になって、支払いの判決が出るといった事例も出てきていますので、教員の授業として出来ることとできないことを把握しておく時期に入ってきているので、これについてもどこかで研修のような機会を設けていただくと勉強になりますし、個人を守ることに繋がると思います。併せて教員研修に関して、法整備もされて、教員研修の履歴なども出てくるので、教育委員会主催であれば、教員研修をしたと記録に残っていくので、続けてやっていただけたらと思いました。

中野委員長：

三輪副委員長はどうか。

三輪副委員長：

最初は、子どもたちが使えるかどうかとか、どのように先生達は授業でやるのか心配していましたが、そのような心配はよそに、子どもたちは自分で使える、自分で検索できるという段階まで高まってきていると思います。確かに、私もコンピューターで繋がるという協働学習的なところは、最初はいいなあと思っていましたが、最近では、ここはやはりパソコンで繋がるのではなくて、同じ教室にいるのだから、話したりグループで相談したり、やはりそういう使い方をしていくべきで、もっとこの反省の資料1-2にもあるように、子どもたちは苦手なところを繰り返し勉強できるとか、自分の分からないところを分かるようにするとか、個人の学習の履歴というか、今、成績の時期で通知表の点検などしてはいますが、その中に主体的に学習に取り組む態度という評価がありますが、この部分の評価にパソコンを使って子どもたちの学びの履歴をポートフォリオみたいに蓄積していけると、本当にここの評価は難しいのですが、たぶん、どこの学校でも昔ながらの、挙手の回数や忘れ物の回数などから評価している先生も未だにいます。そこのところを正確に見とれるようにするためには、情報端

末を活用して何かやっていくと、先生が見ていないところでも、子どもたちはこんなに調べているとか、深い学びをしているということが残っていくので、これからの情報端末の使い方はポートフォリオ的な、モーションというソフトがありますが、自分が調べたこと、学んだことを振り返ったり、蓄積できるような使い方にしていくのが、これからの端末の使い方ではないかなと最近は感じています。

中野委員長：

鈴木委員どうですか。

鈴木委員：

3点ありまして、まず1点目が、GIGAスクール構想で3年近く経って、コロナも落ち着いて、他市町と方と話す機会が増えてきた時に感じたのが、犬山市の教育現場をすごく整えていただけているなと感じました。他の市町は大型のモニターが小さかったり、ネット環境がすごくよくなくて、一斉に繋げると落ちてしまうなどの問題が起きている中で、犬山市には大きなモニターを用意していただいたり、ネット環境などもきちっと整備していただいたので、これだけ犬山市の子どもたちは自分たちで使えるような状態になっていると思います。本当にありがとうございます。

2点目は、去年から子ども同士が繋がる学びづくりというテーマで、犬山市の活用の方向性でずっとやってきて、自分もそれを意識して授業を作ってきましたが、三輪校長先生が言われたとおり、妙にクロムブックで子どもたちを繋げようとすると、やはりずっと我々が培ってきた技術を一回置いておいて、クロムブックばかりを使っていこうとした時に、無理に使っているなとか、クロムブックを使わないとこの授業はできなかつたなと満足に思えることが無くて、それよりも、三輪校長先生が言われたようなポートフォリオのような蓄積するような形や、今までの授業をしていく中で、これは準備が大変だなとか、ちょっと手が届かないなという所に、この情報端末が使えると便利だなという使い方ができたら、授業が潤ったとか、そういった使い方をしていったほうが、子どもたちにとってもいい使い方になっているのかなと感じたので、子ども同士が繋がる学びづくりをあまり強く押し出し過ぎると、やはり現場の先生は、例えばジャムボードを使って、そこに意見を出す使い方にとんどん近寄っていくと、本来の子どもたちにしなければならない主体的、対話的な深い学びからずれてしまうのかなと思いました。

3つ目、教員研修についてですが、研修を開いていただくと、やはり情報担当が集まることが多いです。でも現場で本当に研修が必要な先生というのは、情報

担当ではない先生がメインで、学校は情報担当の出張だからということで行くことになってしまう。こちらからこの研修は情報担当が行っても意味ないから、必要な先生が行ったほうがいいですよと言いつらいところがあるので、研修の対象者を指定していただいほうが、本当に必要な先生に届くと思います。

中野委員長：

舟橋委員どうですか。

舟橋委員：

先生方もパソコンオンリーという考え方ではなく、使うべきところは使う、そうじゃない時はそうじゃないという、あくまでも道具としてという意識を持っていただいているので非常にいいことだと思います。知らないうちにPCは正直言って、昔でいうそろばんみたいになってきて、それがあつた世界が標準の世界に変わりつつあるので、ただ、それを絶対使わなければいけないとかというふうにはならないと思うので、上手いこと使い分けていただいているので非常にいいと思いました。

中野委員長：

梅田委員どうですか。

梅田委員：

私も、学校現場に戻ってきたら、こんなにふうになっていてすごく驚くのですが、授業をみていると、中学校の先生方はICT機器を上手に使われているなと思います。小学校の先生となると、それぞれの教科の教材研究というところで、どの教科でも機器を使いこなすことは難しいとは思いますが、うちの学校の先生方は、機器を上手に使いながら、これを使うことによってかなり授業の準備する上での負担も減っているのだらうなと思って、非常に潤っているなと感想として思っております。

中野委員長：

加藤委員どうですか。

加藤委員：

近隣の他市町と比べて、持ち帰りについて特に犬山は進んでいるなという感じを受けます。持ち帰りについて、それなりにリスクやトラブルもあるとは思いますが、そちらのほうもこれからルールをきちっとしていけば、持ち帰って家で

使うことが有効だと思います。

中野委員長：

勝村委員どうですか。

勝村委員：

先ほど三輪校長先生が繋ぐということをおっしゃいましたが、自分もSNSなどデジタルを使って繋がることはできないと思っています。デジタルは情報の共有であって、繋がるというのは精神的なものでないと繋がったことにはならないと思うので。情報を共有するという点についてはこれに勝るものはないと思うので、これは使っていくべきだと思いますし、個別最適な学習を念頭に置いた学習指導を進めたいと思っていますけど、これまで、個別の学習をどのように進めてきたかを振り返ると、どこの学校でも個人の課題追及みたいなことをやらせていくと、テーマの設定から始まった時に、先生と一人一人の生徒が十分な打合せというかコンサルみたいなものをして、どんなテーマでどんな方法を取っていくということをやっているかといえないと思います。それがこのタブレットを使って時間や空間を超えてやれるようになれば、そういう使い方をしたいなと思います。もう一つは個別最適な学習をやった時に、担任一人では、生徒の多様なテーマには当然手が回らないわけです。そういった時に外部や昔だったら地域でやったりとか、そうした人達を子ども達の情報源として、支援をしていただく方として、そうした人達を紹介したり、ここへ行けば話が聞けるよと紹介していたのですが、それはタブレットがあれば子どもたちは自由にできる。その2つの切口を、ICTの機能をもって個別最適な学習を進めることはできないかなと今お話を聞いていて考えました。ぜひ今求められている一人一人の学びを深めていくためのよいツールとして、どう使っていくかという時に、任せるといっても大事だと思いますが、一方では任せただけで、その子をどうコントロールしていくか、その時にこれが難しいと思うのですか、私的なラインで繋がるのはまずいけど、タブレットの中では、先生方と時間を超えて繋がることはいいのかというと、いろんな問題が出てくる。でも相談に乗ってやればその子の追及はどんどん広がって進化していくと思うので、そんな使い方が出来たら、個別の子どもたちの最適な学習が実現しやすい方向になるのかなと感じました。

中野委員長：

では最後に、玉置アドバイザーお願いします。

玉置アドバイザー：

いくつかいい話が出ていますね。

まず私から著作権について、すごく大事でいろんな問題が起こっていますけど、先生方はあまり知らないと思います。学校だったら著作権はフリーみたいに思ってみえるけど、一人一年間いくらかを払っているから授業等で使えるのであって、そういうことをきちんとされて、研修で知識として抑えられることが大事だと思います。行政がお金を出していることをご存知ないのではないかと思います。

それから、繋がるということですが、確かに端末で繋がっていないといけないですが、年間600～700の授業を観ている中で、皆さんが言われたとおりの問題が起こっています。端末を使っているのにかつての授業に戻っていってしまう。それでは一元化した意味がないです。結局、今は意見を言える子が発言してしまいます。わざわざ端末を入れる必要ないじゃないかと。だけど逆に入れたものを上手に繋がっていく。みんなの意見が端末で見えるから2分間フリーですよと言って、端末を持ち歩いてしゃべったりするといろんな繋がりがあるわけです。ある子が周りの子の実験結果をみて自分と違うものだから、まず話したいことを話さないといくと、紙では一斉に共有できないですが、端末だと共有できているからすぐにその子のところに行って聞く。本当にいい対話をしています。だから繋がるという意味では、上手く使えるようにしていけばいいですけど、ただ入れればいいたろうとしているところが多い。でも犬山市がやっておられた学び合いというところはそこにあるわけでしょう。だからそこで原点に戻ってやられたらどうかなということは思います。

それから三輪先生が言われたように、主体的に学習に取り組む態度、主体的な学びは文部科学省が主体的な学びの前に学習を振り返ってみるという言葉があります。振り返ると主体的になるわけです。僕はまだ不十分だ。だからドリルをやろう。僕はこれが面白いから更にやろうというように、先生に全部言われるのは不可能。だから振り返りをして、自分を振り返っていくことが大事です。学びの自己調整という言葉ですが、三輪先生が言われたように、僕は一人一人が振り返って深い学びをしていけばいいと思います。深い学びというのは学級で深い学びをやるのは大変ですが、個人で深い学びを振り返りしながら興味もったことを、簡単に言うとさかなクンをいっぱい育てたいんですよ。さかなクンはだれかの指導を受けてさかなクンになったわけではないです。自分の興味あることをどんどん自己追及して行ってああなったわけなので、まさにそれが深い学びで、それがいわゆる振り返りですから、主体的に学習に取り組む態度の文科省を見ていると、振り返りをしろと書いてあります。だから端末で振り返りをして、それをみんなで読みあっていくというのは方向としては間違っていないので、

三輪先生が言われたことはまったくそのとおりだなと思ってお聞きしました。総じてたくさん授業を観ている中で、犬山はある面でオープンにされていて、いい方向に来ているかなと思います。一つだけ言葉足らずかもしれませんが、研修は鈴木先生の話聞いて、やはり地に着いた皆さんが困っている、さっき言ったように皆さんは実践されているから、例えば何人かの犬山市の先生がそれぞれテーマを設けて、夏休みにいくつか部屋を作って、希望する職員が自ら主体的にすればいいのではないですか。情報研修をやるというと、各学校から代表を出すということだから、それはやはり本来一番必要な人が学んでいないのではないかというふうに思いました。業者さんにいくつも出せというのは大変だけでも、そういうことをやれる先生はいっぱい犬山市におられると思って、ICTを使って実践されているから、先生たちが講師になって研修をやられたらどうかなと思っています。

春日井市は、チャットでそれぞれ自分の授業実践に写真をつけて、日常的にやり取りしています。日常的に情報交流しているそういう仕掛けを作っています。参考になればと思って、いくつか感じたことをお話ししました。

中野委員長：

ありがとうございました。以上で議事が終了しました。それでは進行を事務局にお返しします。

大黒課長：

ありがとうございました。それでは最後に滝教育長、お願いします。

滝教育長：

～あいさつ～

大黒課長：

ありがとうございました。これで第2回犬山市ICT活用教育研究委員会を閉会したいと思います。皆様、本日は誠にありがとうございました。